



251号

2021年

3月26日

発行所 岡山大学職員組合

〒700-8530 岡山市北区津島中 2-1-1

電話 086-252-1111 (代)

7168 (内線)

直通 TEL&FAX 086-252-4148

ホームページ <http://hb4.seikyoku.ne.jp/home/ODUnion/>メールアドレス ODUnion@mb4.seikyoku.ne.jp

目次：1~3：メールシステムの変更に関する対応についての要求書と回答 3~4：学長との懇談会報告
5~6：附属学園団体交渉報告 6~7：旅日記 7~8：「野菜三昧～イチゴ編～」

メールシステムの変更に関する対応についての 要求と回答

メールは、大学内外の人と連絡を取るため、業務上必要不可欠なツールとなっています。TeamsやZoom、あるいはLineやTwitterやFaceBookなどコミュニケーションを取ることのできるツールは世の中にたくさんありますが、少なくとも現在、業務で使うコミュニケーションツールとしてメールはもっとも一般的なものと言えましょう。



岡山大学では、岡山大学のメールについて、Risumailを利用して学外からもメールの送受信が可能でした。それだけではなく、メールを転送したりPOPしたりして学外から大学のメールを読むことも可能でした。しかし、情報セキュリティの強化を理由として2020年12月21日以降、従来の方法では学外からのメールを利用することが禁止となりました。

この変更については、

- ・2020年10月21日の役員・部局長向け情報セキュリティセミナーにて説明
- ・2020年11月20日に教職員に対してメールで通知
- ・さらに12月に入っても何度かメールにて通知
- ・2020年12月21日、従来の方法での学外からのメール利用ができなくなる

という経緯で行われました。



そもそも、学外から大学のメールを読む必要があるのか？と言われる方もいらっしゃいます。特に事務系ではこれまでも大学のメールを学外から読むことは原則としてなかったのですが、この変更で困る人はあまりいらっしゃらなかったようです。しかし、教員にとっては、例えば出張中に大学のメールをチェックすることはこれまでも普通に行われていました。また2020年度

は新型コロナの影響で在宅勤務を行う時期があり、当然自宅から大学のメールをチェックする必要がありました。世の中の流れとして在宅勤務は今後も拡大されていくでしょう。大学のメールを学外からチェックするというのは今後日常的な行為になっていくと思われます。



では、今回の変更で学外から大学のメールをチェックすることはできなくなったのでしょうか？

そうではないのです。ある一定の手順を踏めば、学外から大学のメールを読み書きすることは現在でも可能です。

ところが、今回、まず「学外からのメールを利用することが禁止」として転送やPOPで読んでいた人はその設定を解除するように通知がありました。しかし、どのような手順で設定の解除を行うかの具体的な説明はありませんでした。また大学のメールを学外から読むための新たな設定の具体的な説明もありませんでした。さらに通知には設定に関する個別の問い合わせには対応しないと最初に明記されていました。

そのため、多くの人々が新たなメールシステムに対応する設定がわからず、かといって個別問い合わせをすることもできず、一月以上大学のメールを学外から読むことができなくなった方も多数おられたようです。また、学外から大学のメールをチェックできるように設定変更した場合、それまでの環境と異なるため、以前のメールを新しいシステムから参照できないという非常に不便な状態になっておられる方もいらっしゃいます。これらのメールシステムの変更に伴い、教職員が費やした時間はかなりのものでしょう。

組合ではこれは非常に重大な問題だと考えています。そもそも新型コロナウイルス対策として、いつ在宅勤務になってもよいような体制を整えるべき時期であるにもかかわらず、今回のシステム変更はそれに逆行するようなものと言っても過言ではないと思います。またきちんとした手順書がなかったために多くの教職員が混乱し多く

の時間を費やさざるを得ない事態に陥ったと思われます。きちんとした手順書がなかったことについては情報統括センターの人員不足が原因ではないかと組合では考えています。

この件について、岡山大学職員組合は2021年3月5日に以下の要求書を提出し、3月18日回答がありましたので、お知らせします。

以下が組合が提出した要求書の要求事項です。



1. 学外からのメール利用方法を変更する理由はなにか、具体的にお答えください。
2. 学外からのメールの利用方法を現在の形にすることはどのようにして決定されたのか、その経緯を教えてください。
3. 学外からのメールの利用方法の変更に関して情報統括センターからの連絡には具体的な変更方法に関する説明が乏しく、わかりにくい、と岡山大学職員組合では考えていますが、今回の情報統括センターの対応について大学執行部としてはどのように評価しているのかお聞かせください。
4. 実際に1月末になっても学外からのメールの利用ができなくて業務に支障をきたしている教職員が存在しているということに対して、大学執行部としてはどのような対応を取られる予定かお聞かせください。
5. 岡山大学における情報統括センターの役割について大学執行部としてはどのように考えておられるのかお聞かせ下さい。岡山大学職員組合としては、情報統括センターは、人員を大幅に強化し、岡山大学におけるネットワーク・コンピュータの管理だけではなく、ネットワークやコンピュータのトラブルに対するサポート、Moodleをはじめとする様々なシステムについての講習の実施やトラブル対応などを行う重要な機関として位置付けるべきだと考えております。オンライン授業の支援として現在高等教育開発推進センター内にEdTechサポートオフィスがありますが、コンピュータを使った教育の支援という意味で情報統括センターとの違いがわかりません。コンピュータやネットワーク、Moodleを含めたさまざまなシステムに関する問い合わせの窓口を一元化していただけるとわかりやすいと岡山大学職員組合では考えています。



大学からの回答です。



(要求事項1. についての回答)

本学メールシステムのセキュリティの確保により、構成員のメールアカウントを攻撃者に利用されるリスクを低減するためです。直近の1年間において、メールアカウントを窃取されたことによる不正メールの送信事案が6件発生したことを受けての対策の一環です。

メールアカウントの乗っ取りは、迷惑メールの他組織への大量送信、情報漏洩、マルウェア配布による他組織へのサイバー攻撃、さらにはフィッシング詐欺に利用される可能性など、本学の社会的信頼低下につながるセキュリティインシデントであり、これらを防止するためにメールセキュリティを強化することは、法人としての社会的責務であると考えます。

(要求事項2. についての回答)

2019年度から2020年度にかけて、学外から本学メールサーバーを利用して世界中へ迷惑メールを大量に送信される、深刻なセキュリティインシデントが頻発しました。本学情報セキュリティポリシーの「第2部5.1最高情報セキュリティ責任者(CISO)(3)(エ)」の職務に基づいてCISOが判断し、学長に報告の上、学外からのメール利用方法を現在の形(利用者のパスワード管理のみに寄与しない二段階認証必須)にすることが決まりました。

なお、このことについては、令和2年10月21日の役員・部局長向け情報セキュリティセミナーで報告しました。

(要求事項 3. についての回答)

情報統括センターに対して、周知やマニュアル・手順書等においてできる限り専門用語を避けてわかりやすい表現を用い、誰が何をすべきかを明記して伝えるように指導しております。

(要求事項 4. についての回答)

情報統括センターに対して、利用者相談窓口での分かりやすい説明と丁寧な対応を指示しております。

(要求事項 5. についての回答)

教育研究活動における情報ネットワーク等の利用支援及び DX (デジタルトランスフォーメーション) 推進において、情報統括センターの役割は重要であると考えます。今後、情報セキュリティの確保や教職員への支援に係る体制を充実していきたいと考えていますが、人員や予算的な制約も踏まえて検討したいと思います。

問い合わせ窓口については、それぞれの組織の目的や業務に応じて設けられていますが、構成員にわかりやすく案内します。

一元化については、人員や組織体制とも関わりますので、今後検討すべき事項と考えます。また、研修の実施については、要望も踏まえて検討したいと思います。



皆様からのご意見をお聞かせください!

各役員まで、もしくはメール (ODUnion@mb4.seikyoku.ne.jp) で、ご連絡ください。右のQRコードで専用フォームから投稿もできます。



11/18 学長との懇談会報告

2020年11月18日10時半から1時間あまり、榎野学長と岡山大学職員組合2020年度役員との懇談会を行いました。新型コロナウイルス対策として密を避けるため、例年は学長室で行っていましたが、今回は本部棟第2会議室で行いました。出席人数も少人数に絞り、大学側からは榎野学長、高橋企画・評価・総務担当理事、渡部総務・企画部長、組合側からは大橋委員長、笹倉副委員長、藤原書記長でした。



※撮影時のみマスクを外しました

組合からは以下の6点について懇談したい旨をあらかじめ伝えていました。

- (1) 新型コロナ状況下における大学のあり方について
- (2) 入試業務の増加について
- (3) 学費問題について
- (4) 職員宿舍問題について
- (5) 財政状況について
- (6) 事務手続き簡素化について

以下、それぞれの概略について報告します。

(1) 新型コロナ状況下における大学のあり方について

学長との懇談を行った2020年11月18日現在、日本ではコロナの第3波が始まっていると言われています。11月18日に日本全国であらたに感染が確認された人はこれまでで最多の2201人、東京もこれまでで最多の493人、岡山県ではこれまでで2番目に多い24人でした。

大学でのクラスタも各所で発生しています。幸い岡山大学ではまだクラスタは発生していませんが、確率的に考えて、いつ発生してもおかしくないという点で認識は一致しました。岡山大学で

は今も毎週新型コロナウイルス対策本部を開催して対策を講じており、少なくともしばらくはオンラインと対面の両方併用で授業等を行って



いく方針であるとのこと。さまざまな活動に関しても、リスクアセスメントを行い、リスクがあっても大学として行わなければならない活動については十分に対策をして実施するとのこと。岡山大学でクラスタが発生するようなことがあっても決して当事者の責任とは考えず、大学全体として対処すると明言されました。組合からは、クラスタが発生した時の対応の仕方について教職員に周知が十分でないところが見受けられるので十分に周知してほしい旨を要望しました。

(2) 入試業務の増加について

新型コロナ対策もあり、入試業務が増加しています。このことについて学長にどのようにお考えかをお聞きしました。学長も入試業務が増加していることは認識しているが、現在の状況ではこれは致し方がないことであるとして、協力を求められました。組合としては、必要性は認識するが、それにより業務量が増加しているということはきちんと認識してほしいと要望しました。

(3) 学費問題について

最近、国立大学で学費を値上げするところが出てきています。東京工業大学、千葉大学、東京芸術大学、一橋大学、東京医科歯科大が標準額よりも値上げを行っています。岡山大学と状況が似ている千葉大学では、全員留学を義務化し、そのために必要であるという理由で学費を値上げしました。

岡山大学執行部でも学費に関して議論はしているということです。ただ、やはり何か学生にとってプラスのことを明示できないと学費の値上げはできないというのが現在の見解だということです。

また、新型コロナウイルス関連で学生から学費値下げの要望などが来ているかを問いましたが、今のところ岡山大学ではそのような要望は来ないということでした。

(4) 職員宿舎問題について

縮小が計画されている職員宿舎について聞きました。職員宿舎の維持費を大学の予算の中から出さなくてはいけないなり、すべての職員宿舎を



維持することが難しいことについて理解を求められました。職員宿舎を福利厚生

生としてではなく若手研究者とか遠隔地から新規に来ていただく場合の赴任環境整備が目的との説明でした。職員宿舎を撤去したあとの土地活用については現在検討中とのことでした。

(5) 財政状況について

今年は新型コロナウイルスで財政の面でも例年とは異なる状況になっていると思われるので、現在の財政状態について聞きました。新型コロナで旅費の支出が例年より大きく減っており、また光熱費の支出も例年より減っている反面、消毒対策やオンライン授業対策など例年とは異なる支出があり、現状では大学の収支としてはほとんどというところだということです。ただし、大学病院は外来患者数減少や診療制限などの影響による収入減等、厳しい財政状況が続く中、患者の受入対策や感染予防対策を徹底した上で改善に向けた取組を行っているとのことでした。

岡山大学病院はコロナの重症者を引き受けており、その経費がかかること、また患者の診療控えが起こっており患者が減っていることが赤字の大きな要因となっているとのことでした。患者者の診療控えはこのところ少しましになってきているとのことですが、これから新型コロナウイルスの第3波がくるとまた診療控えが起こる可能性があるかとみているとのことでした。

(6) 事務手続き簡素化について



大学としては事務手続きのIT化に現在力を入れているということでした。来年度(2021年4月から)には電子決裁のシステムが稼働する予定だそうです。組合からは、単にIT化するだけではなく、それをきっかけに業務の見直しを行って無駄を省くようにしてほしいと要望しました。

今回の学長懇談会では、再任が決まった榎野学長にさまざまな問題についてのお考えをお聞きしました。財政的なことを考えると岡山大学の将来は厳しいものとなりそうですが、現状ではできることを一丸となってやっつけようという気持ちが伝わってきました。岡山大学職員組合としても、岡山大学がより魅力的な職場となるよう活動していきたいと思っております。

3/16 附属学園単組が団体交渉 ～附属学園教職員の人事・身分保障について改善求める！～

3/16(火)夜 岡大附属中にて、附属学園団体交渉を行いました。当局側は、三村学部長、前田小中兼務校長はじめ6名、組合側は、附属学園から竹島執行委員長、稲本副執行委員長、三村書記長はじめ幼・小・中の教員約20名、教育学部単組から加藤執行委員長、連合体から大橋執行委員長はじめ4名が参加しました。1年前に開催された、高橋理事・三村学部長らと附属学園教職員による懇話会も踏まえつつ、交渉事項の中心は、附属学園教職員の人事・身分保障についての改善でした。附属学園の教職員は岡山県や岡山市の教育委員会から「人事交流」として転籍出向(公立学校を一旦退職して、岡山大学法人の職員になる)しています。この際、岡山大学学長と教育委員会教育長の間で締結されている「人事交流に関する協定書」及び同「確認書」と、教職員らが赴任時に渡される「労働条件通知書」について、十分な説明や確認がされていないことやそもそも内容に改善の余地があることを確認しました。



具体的には、「実子の入学・在籍」「勤務年数」「進行中の教育研究のリーダー」などについて、教職員人事でどう判断するのかについて、当該教員や現場サイドの意向尊重や説明責任が十分に果たされず、不納得感や混乱を招いたことがありました。当局側は「迅速かつ適切な対応」を繰り返すだけで、附属学園の現場感覚を汲み取った上での謝罪はありませんでした。その他の内容についても、下記のような回答でした。

【大学からの回答】

- ・県・市教育委員会との協定書について、これまで以上に内容を周知していくこと、協定書または申合せ書もしくは確認書に期間について記載を検討していきたい。
- ・人事プロセスについて、附属学校園や教育学部の将来構想に基づいた人事交流の(こんな人を送ってほしい、附属でこんなふう育てたい)在り方については三者で検討している。個別な



教員の人事異動については、教育委員会と部局学校園の総合的な判断により決定している。人事異動の教職員には不安が生じないように可能な情報開示と状況説明を行っていききたい。

- ・小中学校長の兼務については、10月に回答した通りで、附属学校園をどのようにしていくか将来構想と関わるものなので長期的な視点で考えていきたいと思っています。現場教員の聞き取りも行いながら、今後慎重に検討していきたい。来年度の聞き取りについては、年度当初はなかなか忙しいと思いますので、それ以降に考えていきたいと思っています。
- ・教育実習期間について、現場と意見を出し合いながら一番無理のない形でできるようにして

いききたい。教育実習等指導手当については、全国的な状況をふまえながら大学本部と相談していく。



今回、教育学部附属学園について、広く人事交流の取り決めが曖昧であること、当該教員や現場へのインフォームドコンセント(説明と同意)が十分でないこと、封建的な上意下達のように扱う意識の変革が必要であることなどが、再確認されました。これらの具体的な改善を、今後も附属学園単組、教育学部単組、連合体などと連帯の上、求めていきたいと思っています。また、来年度の附属学園における教育研究体制に対して十分な配慮と支援が行われるとの約束が反古にされぬよう厳しく注視していきたいと思っています。

以下、交渉後の組合員からのアンケートから一部抜粋・要約の上、紹介します。

○当局の回答・態度について

「冷淡」「最後まで体面繕いに終始」「問題点を認めない(歩み寄らない)」「都合の悪いことは回答が曖昧」「謝罪の言葉がなく残念」「謙虚に現場に

謝りを伝えてくれない様子に「がっかり」「誠意を感じられなかった」「問題の難しさや根深さを感じた」などの声が多数寄せられました。

○附属学園赴任時の人事交流について

「決定したもので、として伝えられた」「辞退は不可能、と言われた」「(人事交流や期待されていることなど)説明は何もなかった」「よく分からぬまま受けた」「何を期待されているのか、その期待は今どうなのか、期待通りなのか、そうでないのか…正直、しんどい思い」「全く何の情報もなかった」「人権無視としか思えない」「猶予なかった」「人事プロセスを透明化してほしい」など、当局が主張する内容と異なる現実が改めて浮き彫りにな

りました。



○今後の人事について

「県北へ帰れるのか不安」「勤務は原則3年(?)なので、もう1年頑張りたい」「子どもや家族の状況なども配慮してほしい」「附属学園での勤務期間を明確にしてほしい」「(他市から)岡山市への転勤を実現してほしい」「教育委員会に対して、岡大にはもっと強く意見してほしい」「管理職には我々を守る立場であって欲しい」「一貫性・透明性はさらに明確にして欲しい」「これまでの先輩方も疑問をもったままだった」など、不安と期待が交錯する声が寄せられました。

(文責：附属学園執行委員長 竹島 潤)

ローカル線で行く！フーテン旅行記

第78回

天空に広がる世界遺産！

高野山（後編）

工学部職員組合 大西孝

長い参道を歩き、奥之院の参拝を終え、中の橋にあるバスターミナルから壇上伽藍（だんじょうがらん）のある西側のエリア「本山地区」と「伽藍地区」へ移動します。金剛峯寺のホームページによれば、高野山は、「一山境内地」と称し山上の至る所が金剛峯寺の境内になっていますが、一般的には、本山地区にある正門や主殿を有する境内が「金剛峯寺」と認識されています。なお、金剛峯寺は熊野三山、熊野古道や奈良県の吉野山にある金峯山寺（きんぷせんじ）などとともに「紀伊山地の霊場と参詣道」として2004年に世界文化遺産に登録されています。1200年の歴史を誇る山上の宗教都市と、紀伊山地に点在する聖地、さらにはそれらを結ぶ参詣道が現代に残り、鉄道や道路の発達でその一端を手軽に訪れることができるのは、ありがたいことです。

1593年に建立されたという金剛峯寺の正門を通ると、大きな屋根の主殿が正面に建っています。檜皮葺の屋根の上を見ると所々に桶が置かれた台がありますが、これは雨水を集めるもので、万が一の火災のときに屋根の上に水を撒いて延焼を抑える目的で設けられているそうです。この建物の中には鮮やかな絵が描かれたふすまのある大小の広間があり、古くから高野山が繁栄していた様子を今に伝えます。

ここから少し西へ歩くと、壇上伽藍に出ます。ここに建つ丹塗りの根本大塔は高野山のポスタ

ーでおなじみの象徴的な建物である他、高野山地区の総本堂である金堂も隣接しています。西暦800年代に開基された当時の建物は火災で焼け、現在の建物は再建されたものですが、巨大な塔や伽藍が立ち並び、鐘の音が響き渡る様は宗教都市の中心にふさわしいものです。

壇上伽藍から、路線バスでケーブルカーの高野山駅へ戻ります。極楽橋と高野山駅を結ぶケーブルカーは1930年（昭和5年）に作られた歴史のあるものですが、今使われている車両は4代目のもので、2019年にスイスで製造された最新型です。大きな窓と鮮烈な赤と黒の車体が特徴で、多くの乗客を一度に運ぶために、2両編成で運行されています。一方で山上の高野山駅は開業時のままの駅舎を大切に使用しており、国の有形登録文化財に指定されています。路線バスからケーブルカーまでの待ち時間があるときは、レトロな駅舎の2階にある待合室でゆっくり過ごすのも良いでしょう。

極楽橋駅からは高野線の橋本行き普通電車に乗り換えます。高野下駅まで急な下り坂ときついカーブが続きますが、2両編成の電車はゆっくりと慎重に下っていきます。運転台の後ろから運転手さんの手元を見ると、電気ブレーキ（走行用のモーターを発電機として使うことで減速し、摩擦ブレーキによる車輪の過熱を防ぐ）を巧みにコントロールして、細心の注意で運転している様子が客室にも伝わってきます。途中の駅で、高野山へ上る観光列車「天空」や特急列車ともすれ違いますが、ホームでは駅員さんが列車の到着を見守っており、山岳区間に対する安全確保の姿勢が伝わってきて頼もしいものです。高野山の歴史に触れるだけでなく、そこへつながる山岳鉄道にも注目していただくと嬉しいです。



壇上伽藍の金堂（左奥）と根本大塔（右手前）。赤と白のコントラストが強烈な根本大塔は高野山のシンボルとして有名です。



4代目のケーブルカー。2019年に導入されたスイス製の最新型の車両です。



極楽橋駅で並ぶ特急こうや号（左）と橋本行きの普通電車（右）。特急だと難波へ1時間少々で着きますが、筆者は言うまでもなく普通を選びます。



山間部の駅で観光列車の「天空」とすれ違い。この車両は古い高野線の電車を改造したもので、大きな窓からは沿線の緑を存分に楽しめます。

野菜三昧～イチゴ編～

農学部職員組合 安場健一郎

前回のトマトに続き、今回はイチゴについて書いてみようと思います。イチゴって、そもそも野菜か～？とおもう方がほとんどだと思いますが、農林水産省の統計では野菜に分類されています。イチゴは、カキやブドウのように木に果実がぶら下がっているわけではなく、草みたいな植物から果実ができるので野菜という分類にされています。また、イチゴは自然界にはなくて、2種類のイチゴに似た植物から人工的に作り出された植物で、花を咲くための条件が色々あって、,,、といった語るべきことも多い野菜です。

留学生に人気のイチゴ

大学に来ている留学生が一様におどろくのが、日本のイチゴのおいしさだそうです。ベトナムなどおいしいトロピカルフルーツがいっぱいある南国からの留学生が多いのですが、イチゴには何か独特な魅力があるのではないかと思います。また、西洋の方もみなおいしいといますので、日本のイチゴは国際的にみてもおいしいのではないかと思います。

ただ、昔（40年位前）は、イチゴといえば、酸っぱいので砂糖をかけてミルクをかけて、スプーンでつぶしてイチゴミルクにして食べるのが一般的でした（少なくとも、著者の家庭では）。最近、実験のあまりでとれたイチゴをイチゴミルクにしてみたのですが、まず、イチゴが硬くてつぶれ



ない。。取れたてのイチゴで作ると筋肉痛になりそうです。収穫してからしばらく置いてやや柔らかくなったイチゴで作ると、簡単につぶれておいしくいただけました。最近のイチゴは輸送性が良いように硬くなり、流通が発達して柔らかい果実が市場に出回らなくなっているのではないかと思います。



ケーキ用には酸っぱいイチゴ

最近のイチゴはそのままでもおいしく頂けますが、品種改良が継続的に行われたことによる甘味の向上が影響しています。スーパーで買ったイチゴで“すっぱっ”と感じることはほぼないと思います。ただし、洋菓子屋さんが欲しがっているイチゴは酸味のあるイチゴだそうです。甘味はいくらでも調節が効くとのことで酸味が大事とのことです。家庭でケーキなどを作る際の材料にするときには、酸っぱいイチゴを選んでみてはいかがでしょうか？

イチゴ品種の食べ比べ

大学で何種類か栽培している品種を、学生に食べ比べてもらってポジティブなコメントを書いてもらいました。

- ‘女峰’ --- 果肉が柔らかい、酸味がある、酸味と甘みが両立している、形が丸い
- ‘こいみのり’ --- 程よい甘さ、末端まで甘い、すっきりして後味さわやか、やや硬め
- ‘さがほのか’ --- やわらかい、奥深い味、甘みが強く酸味がすくない、ジューシー
- ‘珠姫’ --- 独特な食味、リンゴみみたいな味、硬め、さっぱりしている

- ‘とちおとめ’ --- 酸味が少ない，果肉がやわらかい，主張が大きすぎない
 ‘ゆめのか’ --- 柔らかい，甘くて酸味が少ない，味のバランスが良い
 ‘紅ほっぺ’ --- ジューシー，やわらかい，酸味がしっかりある

だそうです。主観が入っていますし，そうかな？と思えるコメントもありますが，もしよければ，スーパーで購入する際の参考にしていただければと思います。ただ，‘女峰’のように古い品種や，‘珠姫’のような新しい品種はなかなか見かけることはないかもしれませんが。



女峰



さがほのか



紅ほっぺ

品種によって表目や種の色などに違いがあります。果肉の部分も赤く染まり具合にも違いがみられます。‘さがほのか’と‘紅ほっぺ’はスーパーでも比較的良好に見かける品種です。

家庭菜園でのイチゴ

秋にホームセンターで苗を買ってきて，畑に植え付けることで家庭でも簡単にイチゴを栽培することができます。ただし，屋外で栽培するイチゴはどうしても，5月頃に収穫時期が集中してしまいます。冬は寒さで休眠して成長が止まってしまうためです。スーパーにはクリスマス頃からイチゴが出回りますが，これらはハウス栽培されたものです。冬にイチゴをとるのは家庭菜園ではあきらめて，イチゴ本来の初夏の味を楽しむのが良いと思います。主観ですが，ハウスでとれたイチゴよりおいしくできる場合が多いと思います。たくさんとれて余ったときや多少傷んでしまったイチゴは，砂糖を入れて火にかけてジャムにしておくのが良いですね。パンに塗ったり，プレーンヨーグルトにトッピングしたりして，長く楽しめますね。家庭菜園で楽しむのであればイチゴの栽培はそれほど難しくはないので，虫やなめくじの対策が栽培のポイントになるでしょう。ハウス栽培では害虫に悩まされますが，屋外で栽培する家庭菜園では，害虫の天敵がたくさんいますのでそ

こまで大変ではないと思います。



最近イチゴ狩りでよく見かける高設栽培（土を耕して栽培しない方法）が，さまざまな作業が楽なので普及してきています。

原稿を書いていますと，なめくじ対策を教えてくださいとリクエストがありましたので一つ。なめくじは銅がきれいなので，鉢で栽培しているプランタに銅線を巻いたり，銅が含まれている殺菌剤（ボルドー剤など）を水に溶かして鉢のおいてある周囲に散布しておく（植物にかけない）と寄ってこなくなる効果があります。なめくじ駆除の農薬は植物に散布するタイプでなく，株元に置くだけのタイプのものもホームセンターで売っていますのでそれも手軽ですしよく効きます。

また，雑草対策と果実が土について汚れるのを防ぐために，春になって，植物が成長しはじめたら，株の周りに稲わらなどを敷いておくのが良いと思います。果実の土よけ対策だけならばロープを地上から10cmくらいの高さに張ってイチゴの花が土に触れないようにするのも良いとおもいます。また，ベランダなどでは，日当たりが不十分になる可能性があるのでできるだけ，日当たりの良いところで栽培したほうが甘くておいしいイチゴがたくさん取れると思います。イチゴは普通はミツバチで受粉させますので，形の悪い果実が多いようなら筆で花をなでて受粉を促すと良いとおもいます（ミツバチには負けませんが。。。）。



学生が，余ったイチゴの真ん中を少しくりぬいて中に練乳をいれて冷凍庫で凍らせています。暑くなってきたらおいしいだろうなあ。。。



あなたも組合の仲間になりませんか？

教員の方も，事務職員の方も，パートの方も組合に入ることができます。加入申し込みは，右のQRコードからどうぞ。

